



鏡ヶ池

建築を考える上で欠くことのできない建造物であり青森県の県重宝に指定されている。ただ、筆者には、数ある青森県の神社の中でもとりわけ難解で理解しにくい神社であった。とりかかるまでに大変な時間と労力が必要だった。というのは、まず、主祭神の上毛野田道かみつけののたまち(崇神天皇五世孫)であるということである。一般にあまりなじみがない神様である。「たち」と称しているところもある)田村麻呂が創建したという神社は県内にも数多くあるがこの命はめずらしい。浅学のためか、県内ではほかに田道は聞いたことがない。また猿賀の深砂宮(神蛇宮)と崇められて深砂を神蛇と言ひ換えたり、蛇にゆかりがあるらしい。境内社には水天宮があった。ここには水神である蛇がいる。また、社殿の背後には大きな池(鏡ヶ池、旧名弁天池)が広がり、池の中島に弁天さまともいわれる境内社である宗像神社



癒しのスポット探訪

“神蛇”田道将軍を祭る津軽の霊場

# 猿賀神社

さるかじんじゃ

弘前から黒石に繋がる102号線から猿賀ガーデンラインと呼ぶ117号線に自動車が入り、尾上に向かい5分もすると左手に大きな石鳥居が見えてくる。東北自動車道黒石ICから8km弱、12分くらいで着く。取材に訪れた7月の末には神社の背後に広がる鏡ヶ池一面を淡いピンク色に彩る蓮の花が咲いていた。平川市の観光協会によると7月中旬から8月下旬頃まで蓮の花を楽しめるらしい。学名は蓮科の『和蓮』というのだそう、中々他所ではお目にかかることのできない光景だ。ちなみにそのまま自動車で2、3分進むと「アニメーション」となるの「トトロ」の屋敷モデルではないかと有名になった盛美園がある。すぐ近くなので朝早くお参りし、池の蓮を眺めてから庭園を鑑賞するというコースはおすすめで、中々贅沢で得した気分になれる。

さて、今回取材した猿賀神社は津軽地方では、岩木山神社と並び格式が高く、崇敬者も多い。本殿は県内の近世神社が鎮座している。(鏡ヶ池に隣接して見晴ヶ池があり中島に恵比須神社がある。)

これは、琵琶湖の竹生島や上野の寛永寺にある不忍の池にも弁天宮があり、これらの形式を踏襲していると思われる。(山谷敬宮司談)

江戸期の神仏習合時代の雰囲気を含んでいる。神社の背後の空間を含めて、公園全体が癒しの空間を醸成しているというか、洗練されているような。俗な感じがないのである。あらためて、この辺りは、津軽でもひと際豊かところだと感じた。

(P106へ続く)



盛美園 写真：平川市観光協会